

	西東京市立ひばりが丘中学校 第2学年 第30号 令和6年10月23日発行
---	---

10月23日から31日まで、4時間授業が続きます。3時半までは自宅学習になりますので、期末考査に向けて勉強してください。出歩かないように気をつけましょう。今回は合唱祭の作文はB組を紹介します。



「34人の音色」

B組

10月18日。私たちは、合唱祭で、優秀賞をとることができ、さらにクラスから指揮者賞も出た。惜しくも最優秀賞はとることはできなかったが、私はとても満足している。その理由は、32人いや34人の音色が一つになったからである。

私たちのクラスは、本番の時点でとても評価が低かった。その理由は、リハーサルの時の大失敗が深くかかわっている。私たちのクラスの自由曲「YELL」は、とにかく難しい。けれどもうまく歌うことができれば、評価は高いという複雑な曲だった。私たちは、一人一人の歌声が合わないままリハーサルに臨んだ。結果は、ボロボロだった。ハモリ、歌詞を覚えていないなど、リハーサル時点でたくさんの課題が浮かんた。他のクラスと比べてもその差は、明白だった。リハーサル後、クラスは完全に諦めモードに入っているように感じ、私もその一人だった。

しかし、文行、審査委員、パートリーダーは全く諦めていなかった。文行は、代表として予定を的確に伝えてくれた。審査委員は、私たちクラスのために改善点をあげて、それをまとめた紙を作ってくれた。パートリーダーは、各パートの代表として仲間を引っ張り、時には口論になることもあったけれどもリーダーとしてみんなをまとめて私たちを率いてくれた。この代表たちの“思い”に各パートは、再び心に火がついたように見えた。その後の練習では、的確なアドバイスを通してどんどん成長していき、リハーサルとは比べ物にならないほど成長した。そして、34人の音色はついに一つとなり、すばらしい合唱を贈ることができた。

合唱祭は、やはり最優秀賞を取りたい。けれども私は、バラバラだった34人の音色が一つになって、すばらしい合唱にすることができ、とても清々しい気分である。

「輝いた合唱祭」

B組

結果発表の瞬間、エールが流れてとてもうれしかった。私は合唱祭で賞をとったことがなかった。だからうれしかったのもあるが、私は2年B組の全員の努力が認められたことがとてつもなくうれしかった。

夏休み前に課題曲の「時の旅人」の練習をはじめた。音程を覚え、アルトの一員として歌った。練習中、何度も何度もつられそうになって、つられて、すごく大変だった。それでもつられないように声をあげて歌った。「時の旅人」は、まだ歌いやすいほうだった。問題だったのは「エール」だ。音程は、難しいし、ひたすら歌いづらかった。正直、私は無理だと思った。私はつられてばかりだし、音も全然違うし、歌詞も覚えきれないまま合唱をして、みんなバラバラだった。アルトは人数も少なく、大変だった。けれど、私以外みんなすごい人達だと思った。何回もわからないところを質問した。全てちゃんと答えてくれた。優しくてしっかりものが多いパートだった。個人的に一番がんばっていたと思う。

私はアルトの人達と歌えてよかったと思った。時の旅人のアルトのソロパートはみんな胸を張って歌っていた。私も誇りをもった。男子も歌詞を間違えたり、音がズレたりしてバラバラだったのに、いつのまにか歌えるようになっていた。ソプラノも全員で協力して声を出していて、とてもよかった。本番で歌ったものは完成していた。一番難しいエールを歌い、優秀賞をとった2年B組の一員であることに誇りをもった。全員の努力が輝いた合唱だった。

